

自分らしい光 届け

県美分館で崇城大卒業・修了展



絵画や彫刻など216点の作品が並ぶ崇城大芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展＝熊本市中央区

崇城大芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展が22日、熊本市中央区の県立美術館分館で始まった。コロナ禍が続く制作や研究が大幅に制限される中、自らの表現やテーマと

真摯^{しんしん}に向き合ってきた学生たちの力作が並ぶ。27日まで。卒業展は19回目、修了展は17回目で、今年は「プリズム」が全体テーマ。厳しい状況でも、作品を通じて

自分らしい光を届けることで、みんなが輝ける場にしたいの思いを込めた。美術とデザインの2学科で絵画や彫刻、漫画などを専攻する53人が216点を出品している。

田中優作さん（4年）の彫刻「深憂^{しんゆう}」は共に学んできた友人と自身をライオンと男性像で表現。相手の才能におびえる自分と気遣うように寄り添う友人を力強い2体の像に重ねた。岡寄遥佳さん（4年）の油彩大作は、わくわくする気持ちを持ち続けたという願いを、空と海が融合した夢の世界として描いた。

移住者が漁業を学びながら暮らせる環境を提案した港町のデザイン模型や、人種や宗教の違う人々の感情や主張をモノクロの組み写真で伝える作品も目を引く。
(魚住有佳)